

産後うつへの対応について

問 産前産後の母親に寄り添い支える産後ドゥーラに対する市の認識は。

答 産後ドゥーラは現在、東三河には1人もおらず、本市ではサポートを受けられる環境にないが、関係機関が連携して母親のニーズに応じた支援を行っている。今後、産後ドゥーラの情報に注視するとともに、本市の産後支援のための活用について研究していく。

稲吉郭哲（自由クラブ）

市民病院のよびなを飛躍的に

問 再生医療による白斑治療を始め、今後は研究・研修などの人材育成と勤務環境を整備することは、

優秀な人材確保になり、結果的に市民に最善の医療を提供することになる。敷地内に新棟を建設する考えは。新たな診療科の設置や再生医療など新たな分



患者さんに対して、最善の医療を行う市民病院

野に取り組むためにも、現状のスペースでは手狭になってきていると感じている。今後の予算編成で、新棟建設の調査費用について判断していきたいと考えている。

国道247号鹿島バイパスについて

問 国道247号鹿島バイパスの4車線化は。

答 県からは、新拾石橋の橋梁設計を含む区間北側の道路設計に着手し、今後は区間南側の鹿島大橋の橋梁設計にも着手していくと聞いている。

大場康議（自民党市議団）

ウイズコロナにおける令和3年度予算編成

問 歳入見通し、重要施策、ポート会計からの他会計繰入れ見込みを伺う。

答 コロナ禍での予算規模縮小が見込まれるが、子育て・教育環境、健康づくりと医療、防災・減災、シテイセールス等の施策の推進を図る。ポート会計からの土地区画整理・病院・下水道事業への繰入れは前年度並みにできると見込む。



狭隘道路の解消についての取組

問 道路敷地寄附受納取扱い要綱では、セットバック（道路後退部分）の土地の寄附に係る測量、分筆、舗装費用等が地権者負担とされているため、道路用地の寄附が進んでいないと考える。費用に対する補助金等の事業化の考えを伺う。

答 新年度予算の中で、新たな取組の予算を計上する方向で検討している。

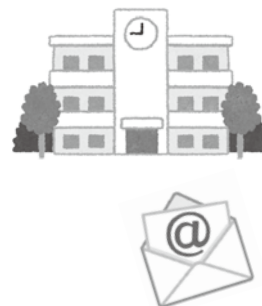
鈴木貴晶（自由クラブ）

学校・保護者間における連絡等について

問 小中学生が年間に配布される連絡用紙の枚数は。電子化できないか。また、安心ひろめーるの活用も有効だと考えるがどうか。

答 小学生は1人当たり800枚程度、中学生は1000枚程度配布されている。電子化は順次可能なものから対応していきたい。緊急性が高く、一方通行で

良い連絡は安心ひろめーるを併用し、補っていききたい。



海のまち蒲郡の新たな可能性

問 ポートの新種目コースタルローイングが2026年アジア競技大会の正式種目となり、市内で国内大会が開催された場合、市として支援する考えは。

答 本市の知名度向上や経済効果も見込まれる。大会の周知や関係機関との調整等、支援できることがあれば協力していきたい。